

書店には今、宗教・心理学・自己啓発関係の本があふれている。重厚な哲学書も根強く読まれている。ミシェル・フーコーはその一人である。彼は、フランス知性の最高峰コレージュ・ド・フランスの教授としてサルトル以降の現代思想をリードしてきた。狭い枠組みにとらわれず幅広く表現活動を進めてきたが、惜しくも一九八四年に五十七歳で亡くなった。

エイジング

「トークは、今自分たち
が生きている現在とは何で
あるのか、と問い合わせた。

日々の暮らしの中で何気なく感じる違和感や矛盾を歴史的に掘り下げる的確につかむことが、彼のライフ

史 学校 病院 監獄
兵舎といった近代的な施設の問題点を指摘した「監獄の誕生」。性は抑圧されるといふ前提に根本的な批判を加え、自己と他者との新たな関係を模索した「性の歴史」(以上、新潮社)。いずれも現実的な社会。

めぐる本



フーコーの生涯と哲学の本

混迷の時代に合う哲学

スキヤンダラスな人生

会問題と深くかかわり、しかも安易な処方せんを提供するのではなく本質的な問題点を鋭く指摘している。哲学者といえは厳格な人物像を思い浮かべるが、同性愛者たつたフーコーの生き方にはスキヤンダラスな香りさえあり、それがまたト著、山本学訳「ミシェル・

「一」「一」「伍」(新潮社・三
五〇〇円)は、知られざる
フーコーの生きさまや交友
関係などが描かれており、
読み物としても面白い。繩
密な取材活動とインタビュ
ーの成果が十分に発揮され
て生きたフーコー像を描い
ている。

【賞】（日本エーベン）
「（日本エーベン）タレント
クール出版部・二、五〇〇円
）が、言葉や身体、死の
意味を社会理論として明解
に説解している。「自分」
について深く考えようとする
人々、アメリカでフーコー
一派のびのびと自己の自由
の在り方について語った田

——ルマリエツテ著 桑田
禮彰ほか訳「ミシェル・フ
ーコー 考古学と系譜学」
(新評論、三、八〇〇円)
は哲学史からフーコーの仕
事を縦密に位置づけてお
り、言葉や知と社会的な制
度の編成の在り方との関係
を描いている。

権力の問題…

自己と他人、性の問題についてはバーナウアーほか

佐幸信介はか訴
最後のアーヴィングの「ワーコー」(三交社・二、
三〇〇円)が刺激的である。
絶筆となつた「性の歴史」
の書かれなかつた部分に肉
薄し、同時に詳細な文献目
録を掲載していく便利。

権力の問題を探るには、山本哲士著「フーコー権力論入門」(日本エディターズ)

ルソーやフロベール論など) クール出版部・二、〇〇〇
が収録されている。 社会と百分との間にある 放といふ従来の権力観では
さまざま問題を深く考え なく、日々の暮らしの中に
るにはレマートほか著、山 潜むパワーの在り方を明らか
本学ほか訳「ミシェル・フ かにしており群を抜いてい
ー」「社会理論と侵犯の る。そして最新刊のクレメ

「營み」（日本エディターズ クル出版部・二、五〇〇円）が、言葉や身体、死の意味を社会理論として明解に説解している。「自分」について深く考えようとするなら、アメリカで「フーコー」が「のびと自己」の自由の在り方について語った田村俊ほか訳「自己のテクノロジー」（岩波書店・一、九〇〇円）が糸口となる。

権力の問題……

「自己」と他者、性の問題についてはバーナウアーほか編、佐幸信介ほか訳「最後の「フーコー」」（三交社・二、三〇〇円）が刺激的である。絶筆となった「性の歴史」の書かれたなかた部分に肉薄し、同時に詳細な文献目録を掲載していく便利。

社会関係や性関係に潜む権力の問題を探るには、山本哲士著「フーコー権力論」（日本エディターズ ルマリエッティ著、桑田禮彰ほか訳「ミシエル・フーコー 考古学と系譜学」（新評論・三、八〇〇円）は哲学史から「フーコーの仕事を綿密に位置づけており、言葉や知と社会的な制度の編成の在り方との関係を描いている。

こういった「フーコー論」を取り口として彼の考え方や生き方に接近すれば、自明のものを根本から聞いた直した「フーコー」の思考を自らの武器として活用することができるだろう。混迷する世紀末に生きる私たちは、この「フーコー」の思考から、これから時代や社会の在り方、自分の生き方、考え方を切り開いていく。激動する時代の中で、世界経済のトップに立った日本の行方や世界情勢の行方を探る上でも「フーコー」は使える哲学者たろう。（滝本佳人・文化科学高等研究院）